

日々の祈り

2022年1月3日(月)~8日(土)

宮崎中部教会



<はじめに>

それぞれの日々の生活の中で、神さまに心を向け、御言葉を聞き、祈りをもって過ごしましょう。教会のために、兄弟姉妹のために、隣人のために、祈りを合わせましょう。

<使い方>

毎日の御言葉を、可能であれば声に出して、二回以上読んでみましょう。御言葉をじっくりと味わい、聖霊に導かれるままに、祈りの時をもちましょう。

<今週の祈りの課題>

- ・宮崎中部教会の兄弟姉妹の信仰の歩みが主によって守られるように。
- ・一人でも多くの方がイエスさまと出会うことが出来るように。
- ・世の人々に、イエスさまの祝福と平和があるように。

3日(月)

ルカによる福音書 20 章 17 節

イエスは彼らを見つめて言われた。「それでは、こう書いてあるのは、何の意味か。『家を建てる者の捨てた石、これが隅の親石となった。』…」

昨日の御言葉を思い巡らしましょう。神さまの御心、御業は、わたしたちの思いを大きく超えています。わたしたちが、役に立たない、無価値だ、と判断して捨て去ってしまうものをも、神さまは最も重要なものとして用いることがお出来になります。そのようなものを通してこそ、大いなる栄光を現わされます。わたしたちは頑なな心を打ち砕かれて、驚くべきこの神さまの御業をこそ、御心をこそ、受け入れる者になりたいのです。

4(火)

イザヤ書 55 章 9 節

天が地を高く超えているように／わたしの道は、あなたたちの道を／わたしの思いは／あなたたちの思いを、高く超えている。

わたしたちが御言葉を聞き、祈りをささげ、礼拝しているのは、天地をお造りになり、あらゆるものを支配しておられる、天の父なる神さまです。神さまは、わたしたちの存在を遥かに超えたお方であり、わたしたちの思いなど及ばないようなお方であり、わたしたちは本来、御顔を仰ぐことも許されないようなお方です。天が地を高く超えているように、わたしたちを遥かに高く超えているお方。しかしこの方は、わたしたちと共にあることを喜びとして下さり、低くなり、身を屈め、語りかけ、愛と憐れみを注いで下さる、そのような神さまなのです。

5日(水)

詩編 1編 1~3節

いかに幸いなことか／神に逆らう者の計らいに従って歩まず
／罪ある者の道にとどまらず／傲慢な者と共に座らず 主の
教えを愛し／その教えを昼も夜も口ずさむ人。その人は流れ
のほとりに植えられた木。ときが巡り来れば実を結び／葉もし
おれることがない。その人のすることはすべて、繁栄をもたらす。

わたしたちにとって最も幸いなことは、主の教えを愛することです。主の教えを愛するとは、主なる神さまが、わたしたちを愛して下さっているということを知ること。そして、わたしたちが神さまと愛の関係を築き、また共に神さまに愛されている隣人とも、愛の関係を築いていくことです。そこにはさらに豊かな実が結ばれていきます。主の教えを愛し、昼も夜も口ずさみ、神さまの愛に生かされて歩む者こそ、まことに幸いな者です。

6日(木)

詩編 86編 10~11節

あなたは偉大な神／驚くべき御業を成し遂げられる方／ただあなたひとり、神。主よ、あなたの道をお教えてください。わたしはあなたのまことの中を歩みます。御名を畏れ敬うことができるように／一筋の心をわたしにお与えください。

ただひとりの神を、わたしたちは神とすべきです。この方だけが、驚くべき御業を成し遂げられるお方です。この神だけが、罪人を赦し、死ぬべき者を生かし、滅びの子を神の子として下さるお方です。この神さまに従う道を、この方のまことの中を、歩むことを願います。「御名を恐れ敬うことができるように、一筋の心をわたしにお与えください。」

7日(金)

イザヤ書 43章 4節

わたしの目にあなたは価高く、貴く／わたしはあなたを愛し／あなたの身代わりとして人を与え／国々をあなたの魂の代わりとする。

次の市内講壇交換における主日礼拝の御言葉です。神さまがわたしたちのことをどのように考えて下さっているか。そのために何をして下さるか。その深い、愛の御心が示されています。神さまは、わたしたちを愛するゆえに、ご自分の愛する御子をわたしたちに与えて下さり、わたしたちを愛する神の子として受け入れて下さるといふのです。

8日(土)

ルカによる福音書 3章 21~22節

民衆が皆洗礼を受け、イエスも洗礼を受けて祈っておられると、天が開け、聖霊が鳩のように目に見える姿でイエスの上に降って来た。すると、「あなたはわたしの愛する子、わたしの心に適う者」という声が、天から聞こえた。

明日の市内講壇交換における主日礼拝の御言葉です。イエスさまは、この世に来て下さり、人々に神の国を教え、福音を宣べ伝え、エルサレムで十字架に架かって死なれ、復活させられたお方です。この方は、いったい何者でしょうか。この方は、天の父なる神さまの愛する独り子であり、神さまの御心に適ったことを行なう方です。神さまが、わたしたちを愛するがゆえに救いを与えて下さる、その御心を実現するために遣わされた、わたしたちの救い主です。